

ちむ美らさ

第55号
 発行: 北部農林水産振興センター
 農業改良普及課
 沖縄県名護市大南1-13-11
 電話: 0980-52-2752
 FAX: 0980-51-1013

サヤインゲン 栽培のポイント

①発芽をそろえましょう!

- 播種前日に植え穴かん水しましょう
- 種は絶対に水につけない
- 播種後の覆土は浅め、水はしめらす程度
- 補植用の苗を準備しましょう (目安は10%)
- 発芽まではかん水を控えめにしましょう



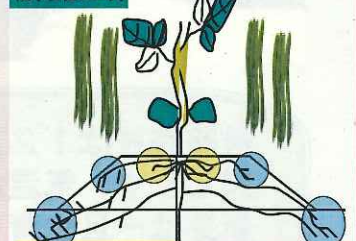
覆土は培養土だと発芽がそろやすい



②初期の根張りを確保しよう!

- かん水は午前中に行いましょう
- 夜温は低めに管理。多湿にならないように
- リン安液肥 800倍~600倍をかん水
- 間引きする株ははさみで切り取りましょう

灌水位置の工夫



生育初期は作物の株元に
手灌水、液肥(リン安)
灌水は午前中に

開花期以降は、
灌水チューブで畦全面へ灌水
肩部・通路の乾燥に注意

③冷たい風に当てない管理を!

- 平張りハウスの場合は季節風が入る側面の内側にビニール、入らない側面には2重ネットなど対策を取りましょう
- ハウスの北側には防風垣や内張カーテンで対策を。



④かん水は生育に応じて行いましょう!

- 本葉3~4枚から開花はじめまで根張りのためかん水は控えめに
- 開花期以降~収穫まではかん水チューブで十分にかん水。

茶の最終整枝は一番茶生産 で重要な処理です。

葉層とは摘採面以下の葉のついた厚みのある層のことです。葉層を確保しながら、そろった切断茎にすることが目的です。

切断茎から出てくる側芽が一番茶新芽となります。適切な管理をすることで均一な芽をそろえ、多収で高品質な茶を生産しましょう。

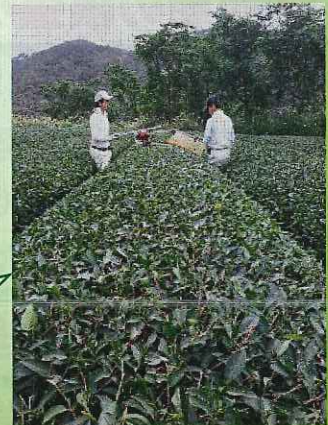


技術のポイント

葉層をできるだけ確保することを目標とします(8 cm以上)。

良質でそろった新芽を出すには、枝の太さが1.8 mm以上で太さのばらつきがないようにします。

最終整枝は12月中旬～1月上旬に実施します。気温が低下し始めると茶の新芽は一旦生育を停止します。冬期の低温期間を利用して一番茶にむけて養分の蓄積をはかります。

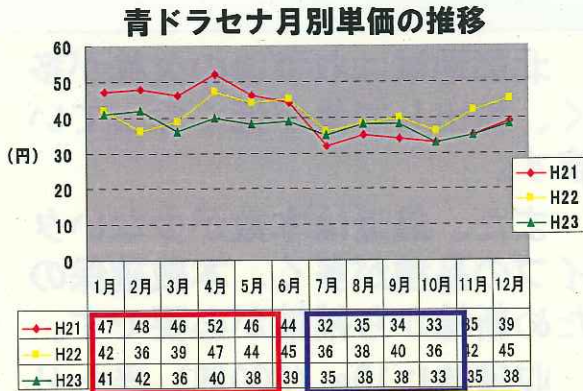


*最終整枝で葉層を確保しながら、揃った切断茎を確保するには1年を通じた栽培管理が重要になります。

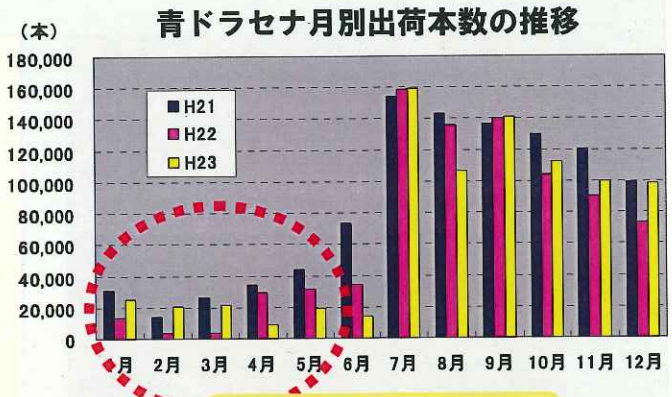
○丈夫な枝を作るには丈夫な根を作ることが大切です。収穫後の8～10月は土壌改良、土づくりに励みましょう。

○最終整枝でそろった切断茎を確保するためには8～9月にかけて、勢いの良い枝を切り落とす整枝を行う必要があります。

冬春期出荷に向けた青ドラセナ雨よけ栽培管理のポイント



冬春期（1月～5月）は夏場に比べ、単価が約5円～10円前後高くなる。

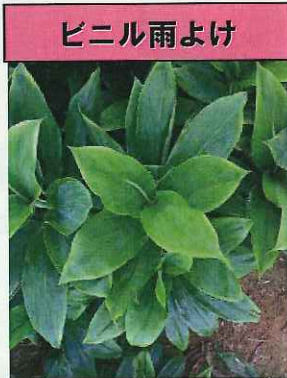
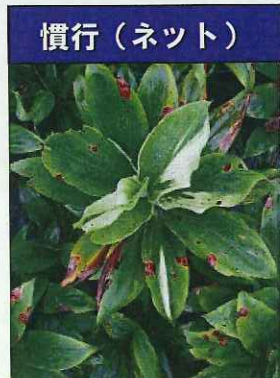


市場からのニーズも高いが、出荷できていないのが現状。

冬春期に出荷するには 冬場に発生する「寒やけ」(炭そ病が主な原因)の対策が必要！



雨よけ効果（被覆期間11月～5月）



- ① 茎は、1ヵ月で9cm前後伸長。
→ 80cm伸長するのに10ヵ月前後。
- ② 葉は、1週間前後で1枚増加。
→ 7枚そろうのに2ヶ月前後。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冬春期出荷用作型(ビニル被覆/雨よけ栽培)												
収穫												
ビニル												
茎												
葉												

出荷規格（草丈80cm、葉が7枚）

管理のポイント

ビニルを被覆すると乾燥するため、葉ダニが発生しやすくなります。適度なかん水、適期防除が重要！

さとうきびの補植苗を作しましょう!



平成24年4月名護 株出し欠株状況

北部地域は収穫後の欠株が多く、株出し収量が低くなっています。

また、最近では本数が少ないタイプの品種が多く、本数確保のため新植から補植が必要です。

収穫時に10a (300坪) 当たり10,000本程度の本数を確保するために初期の芽数は4,800本、補植は一芽苗で400本程度必要です。



補植苗は色々ありますが、11月頃はさとうきびの作業が少なく、この時期から一芽苗育苗すると大苗が作れるので、株出しや春植えの補植苗作りに適しています。

補植用一芽苗の作り方



①畑から苗を切る



②健全な芽を確認し一芽苗に切る



③水又は石灰水500倍液に一晩程度つける



④一芽苗用トレイやポットなどに苗を入れて覆土する



⑤堆肥などの上に苗を置いてかん水する



⑥うまくいけば分けつの発生した苗が作れる